令和元年9月9日

文化財だより

No. 2

発行：藤里町教育委員会
〒018-3201
秋田県山本郡藤里町藤琴字家の後67
TEL 0185-79-1327
FAX 0185-79-2227
E-mail：kyouiku@town.fujisato.akita.jp

特集 白神山地世界遺産センター藤里館　イベント情報
『平野庄司切り絵原画展』開催中！

白神山地世界遺産センター藤里館では、特別展示「平野庄司切り絵原画展」が開催中です（9月末まで）。

この企画展は、町指定文化財にもなっている、切り絵画家の故・平野庄司氏の切り絵原画の数々をたくさんの方に見ていただくため、切り絵教室の皆さん、白神山地世界遺産センター藤里館様にもご協力をいただきながら、当教育委員会が毎年開催しているものです。

今回の展示は「秋から冬へ」というテーマで、「落葉たき」、「正月の夜」など、季節に合わせた切り絵作品約40点を展示しています。

藤里町歴史民俗資料館に保管されている平野氏の切り絵原画は、普段は保存庫に納められており、一般公開はされていません。

この特別展は、平野氏の原画の数々を直接見ることのできる貴重な機会となっています。

平野庄司切り絵原画展は、9月30日（月）まで開催しています。平野氏の描いた切り絵の世界を、この機会にぜひご覧下さい！

会場の様子。秋から冬を題材とした切り絵が並ぶ。

平野庄司切り絵原画展
期間：9/4（水）～9/30（月）9:00～17:00　まで
場所：白神山地世界遺産センター藤里館
その他：火曜日休館　入館無料

【町指定文化財データ】
名称：平野庄司切り絵原画
数量：206点
年代：昭和～平成
文化財の種類：有形文化財（絵画）
記号番号：第四号
指定年月日：平成24年7月4日

－平野庄司氏略歴－

1928年　秋田県能代市生まれ。
1970年ころから切り絵の創作を始め、日本きりえ協会代表委員などを歴任。
東京、大阪、仙台など全国各地で56回の個展を開催したほか、新聞や月刊誌などに掲載され、テレビなどでも放映された。
わらべ唄に造詣が深く、秋田魁新報に「里の花と唄」、北羽新報に「北のわらべ唄」をそれぞれ掲載。
切り絵の絵文集としては、「西馬音内・北の盆踊り」「蘭の花物語」「ハンガリーの小さな旅」「エミシさいごの反乱」「北の民話」「北のわらべ唄」など18冊を刊行し、多くのファンに親しまれた。
2005年度秋田県多喜二祭賞、2007年度藤里町教育文化功労者表彰、2009年度白神文化章を受賞。
2010年3月に藤里町に寄贈された、氏の切り絵原画206点は、町指定文化財となっている。
2011年12月30日没。

編集後記

文化財だより第2号、いかがだったでしょうか？

本紙が皆さんのお手元に届く頃には、今年の浅間神社祭典は終了しているはずですが、本紙編集期間中はちょうど祭典準備の真っ最中。

夜、外に出て耳を澄ますと、遠くから踊りの練習をする太鼓や笛の音が聞こえてきて、お祭りが近いのだなと感じます。

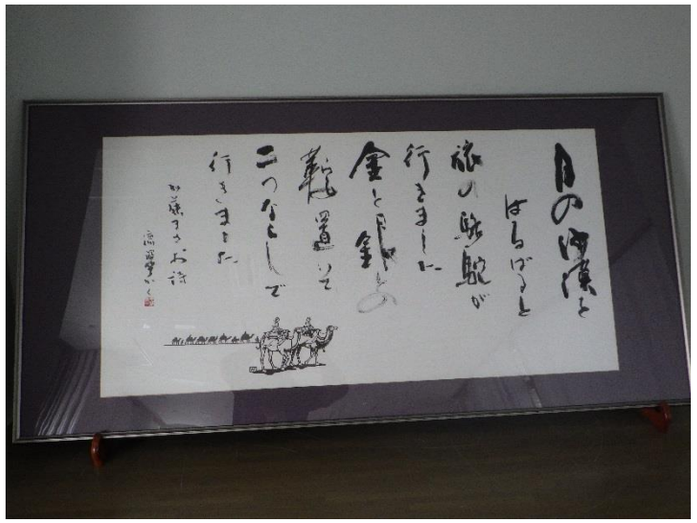
大勢の観衆を前に踊りが披露されるのは、もちろん祭典当日ですが、お祭り前の「夜の音」というのも、普段とは違う特別な雰囲気があるのではないかと感じます。

地域とともにある伝統芸能だからこその「季節の風物詩」が、これからもずっと残っていて欲しいものだと思います。

藤里町教育委員会

皆さんのご意見・ご感想お待ちしています！

書と切り絵のコラボレーション作品『月の砂漠』藤里町へ寄贈



今年7月、能代山本書道会顧問の千葉良一さん（前八峰町教育長）から、自作の書が当町へ寄贈されました。

この作品は、切り絵画家の故・平野庄司さんとの合作で、千葉さんの書に平野さんの挿絵が添えられたものです。

童謡「月の砂漠」を題材としており、左下の部分に、歌詞にあるように2頭のラクダに乗った王子と姫の姿が描かれています。

今回の寄贈には、千葉さんの「平野さんのゆかりの地である藤里町にあるべき」との思いがこめられています。

この「月の砂漠」の書は藤里町三世代交流館に展示されます。

現在、白神山地世界遺産センター藤里館では、毎年恒例の「平野庄司切り絵原画展」が開催中ですが、今回新たに寄贈を受けた、千葉さんと平野さんによるこの貴重な合作作品も、沢山の方にご覧いただきたいと思っています。

コラム 文化財まめちしき
～ 第2回 文化財の種類について① ～

暑さも幾分か和らいできましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？第2回目のテーマは「文化財の種類について」です。

第1回のコラムでも若干触れましたが、「文化財」には、いくつかの種類があります。今回はそこについて解説します。

まずはじめに、文化財には、目に見えて、はっきり形のわかる「有形文化財」と、形の無い「無形文化財」があります。「有形文化財」は、建物や絵画、彫刻、古文書など、比較的イメージがしやすいかと思います。

藤里町の文化財で言えば、鰐口や室岱遺跡出土石棒などがこれに当たります。

それでは形の無い「無形文化財」には、どんなものがあるでしょうか？

例えば、古くから伝わる演劇、音楽、工芸技術など、「技」そのものに価値があるとされるものです。

「人間国宝」という言葉をテレビなどでたまに耳にしますが、前述のような技術を身につけた人のことを、こう呼ぶことがあります。

ここから少しややこしくなるのですが、次に「民俗文化財」と呼ばれる文化財について説明します。

「民俗文化財」は、生きるため、生活するために古くから行われたり、作られてきたものなどで、その地域の人々の生活の推移の理解に欠くことの出来ないものを言います。

この民俗文化財にも「有形」と「無形」の2種類があります。ちょうど、この「文化財だよりNo.2」が皆さんのお手元に届くのは浅間神社祭典の直後だと思いますが、毎年、この祭典で行われる「藤琴豊作踊り」は「無形」民俗文化財です。

一方、町の歴史民俗資料館に展示されている、着物の柄を染め付けるのに使用された「染型紙」は、「有形」民俗文化財です。

駒踊りや獅子舞などの踊りは、形のないもの、染型紙は、しっかりした形のあるものなので、このような分類になります。

有形でも無形でも、どの文化財にも共通するのは、その土地の歴史や、人々がどんな風に暮らしてきたかを物語るものだということです。

文化財を大切にする、ということは、そのものだけを大事にしまいこむのではなく、その文化財が地域にとってどんな意味を持つものなのか、次の世代にもきちんと伝えていくことが、とても大切なことだと思います。

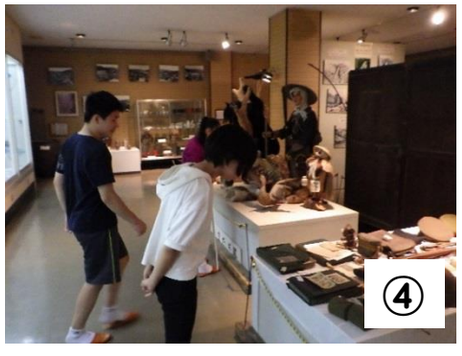
レポート

少年教室「郷土史コース」活動報告

藤里町公民館が、夏休み期間中の小中学生を対象に毎年開催している「少年教室」という事業があります。
「少年教室」では、駒踊りや壮士舞などの伝統芸能コースや、切り絵、陶芸といった趣味のコースなど、様々なコースが設定されているのですが、今年度、新たに「郷土史コース」が開設されました。
ここでは、郷土史コースの活動の様子をちょっぴりご紹介したいと思います。

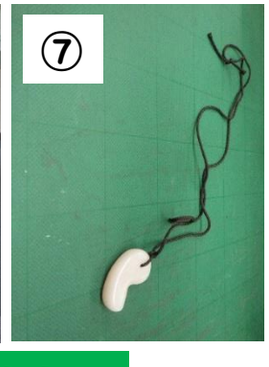
写真①（7月30日火曜日）
この日は、三世代交流館で、プロジェクターを使用して、町の歴史を学びました。
藤里町にいつごろから人が暮らしていたのか、町に伝わる伝説にはどんなものがあるか、皆興味を持って聞いてくれました。

写真②③（8月2日金曜日）
秋田県埋蔵文化財センター様のご厚意により、遺跡の発掘現場を見学＆発掘体験をしました。全員、出土品を掘り当てました。



写真④⑤（8月8日木曜日）
町内の史跡や、歴史民俗資料館を見学しました。資料館に入ったのは初めてという参加者も。

写真⑥⑦（8月22日木曜日）
最終日は、鹿角市の大湯ストーンサークル館から学芸員の先生をお呼びし、縄文時代のことについて学んだほか、勾玉製作にも挑戦しました。



来年度もたくさんの方のご参加をお待ちしています！

Pick Up! 文化財 ～第2回「鰐口（わにぐち）」～

太良鉱山の歴史を見守り続けた、山神堂の鰐口

「鰐口（わにぐち）」という道具をご存知でしょうか？神社やお寺などで、お参りに来た人が綱を使って打ち鳴らす道具で、神社の鈴と同じような役割をするものです。今回は、この「鰐口」についてご紹介します。
かつて藤里町には「太良（だいら）鉱山」という鉱山がありました。この鉱山の山神堂に納められていた鰐口が、秋田県の重要文化財に指定されています。
太良鉱山は鉛を主に産出した鉱山で、全国的に見ても主要な鉛山のひとつでした。昭和33（1958）年、大水害により閉山しましたが、今でも在りし日の太良の賑わいを記憶している人は少なくありません。
太良鉱山の開山は、言い伝えによれば文永年間（1264～1275年）とされていますが、本格的な開発が進んだのは、初代藩主・佐竹義宣の国替え以降、江戸時代に入ってからでした。
鉛は金・銀・銅といった貴金属の精錬に必要な鉱物であり、阿仁鉱山や院内銀山を抱える久保田藩では、鉱山経営上、鉛の確保は非常に重要な課題でした。もし藩内で鉛が取れなければ、精錬に必要な鉛を他所から購入しなければならず、利益が少なくなってしまうからです。
鉛を産出する太良鉱山が藩内にあったことで、久保田藩では阿仁鉱山や院内銀山の金・銀を安価に精錬することが可能となり、順調に利益を上げることができました。
さて、鉱山の話が長くなってしまいましたが、この鰐口には「慶長16年」の銘が入っています。西暦にすると1611年。江戸時代のはじめ、太良鉱山が本格的に開発された時期の作品です。
以後、この鰐口は太良鉱山が閉山になるまでの約350年間、山神堂で鉱山の盛衰を見守り続けてきました。鉱山の歴史とともにあった鰐口と言えるでしょう。
現在、この鰐口は、藤里町歴史民俗資料館で、他の太良鉱山関係の資料とともに展示されています。

太良鉱山の盛衰を見守り続けたと山神堂（左）と鰐口（右）
（山神堂写真：写真集藤里町より　鰐口：藤里町歴史民俗資料館所蔵）

郷土史探求 ～ 第2回 大沢地区～

藤里町の南部に位置する大沢地区にある「水神様の大ケヤキ」は、樹齢1，000年とも言われ、秋田県の天然記念物として指定されています。
この大ケヤキの根元の湧き水は、征夷大将軍・坂上田村麻呂が蝦夷討伐の際に立ち寄り、渇きを癒したという伝説が伝わっています。
郷土史家の故・福司満さんによれば、「能代山本地域には坂上将軍に因む多くの伝説があるが、大半は後世の創作」であるといい、この話も史実とは言い難いようですが、このケヤキがずっと昔から地域の象徴として大切にされてきたことは、疑いの余地はありません。
また、指定等は受けていないものの、「大沢壮士舞」という伝統芸能も伝わっています。「大沢壮士舞」は赤穂浪士の討ち入りを題材とした芸能で、明治時代に大沢に伝わったとされています。
現在は、大沢壮士舞保存会の皆さんにより、継承されています。

10月の町民芸能発表会で披露された「大沢壮士舞」

樹齢1,000年とも言われる大沢のケヤキ